

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 長行 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、算数、理科）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月18日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

教科に関する調査（国語、算数、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問調査

児童質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数、理科）の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	8.6	54	9.1	53
全国	9.4	67	9.3	58	9.7	57

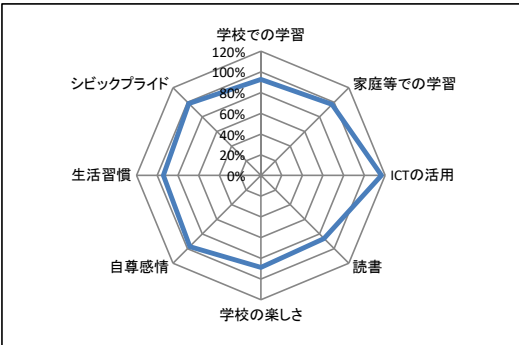
(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	適切な言葉を書き抜いたり、問われていることに対して適切なものを選択したりする問題の正答率が高い。一方で、資料から必要な情報を読み取り、それを言語化する問いに対しては、正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	言語文化に関する事項、情報の扱い方に関する事項	
	努力が必要な問題	記述式の問題（資料から読み取る問題）	

算数	全体的な傾向や特徴など	整数や小数、分数の四則計算について、誤概念による計算上の誤りが見られる。一方で、図形の性質（角の大きさや面積等）について問われた問題の正答率が高い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	測定（目盛りの読み取り）、図形の性質（角の大きさ）	
	努力が必要な問題	四則計算を伴う計算問題	

理科	全体的な傾向や特徴など	実験器具に関して問われた問題（選択式）についての正答率が高い。一方で、水の性質や植物の特徴について問われた問題（記述式）の正答率は低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	顕微鏡の操作等、実験器具の活用に関する問題	
	努力が必要な問題	水の性質（温まり方や蒸発、結露等）に関する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「生活習慣」に関する問いに対して、肯定的に回答した児童が多くいる。引き続き、「おさゆき生活・学習いきいき表」の活用や学校からの通信等で、啓発していきたい。 ・「学習中にICTを活用している」「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が高かった。今後も、様々な場面でICTを活用し、学習活動の充実を図る。 ・「人の役に立つ人間になりたい」との問いに対して90%以上の児童が肯定的に回答している。今後も、キャリア教育の一層の充実を図りたい。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、児童生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える学習活動を計画し、推進していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・児童が集中して学習に取り組めるような学習展開になるよう工夫し、児童自らがその時間にできるようになったことを認識できるようにする。
- ・「長行タイム」や「パワーアップタイム」を有効活用し、補充学習の充実に努める。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・家庭学習（宿題や自主学習）の内容を工夫し、学年×10分の家庭学習の定着を図る。
- ・「おさゆき生活・学習いきいき表」で、家庭学習を含めた一週間の生活時間の記録をつけることにより、自身の時間の使い方についての改善を図ると同時に、家庭への規則正しい生活への啓発を促す。